

琴似発寒川

01



橋の趣き

全部で26の橋が架かっている琴似発寒川。歩道にニジマスやカタツムリなどの装飾が施された「富茂登橋」、屯田兵にちなんでレリーフが施されている「長栄橋」などがあります。それぞれ橋によって趣きが異なり、川沿いにある散策路を行き交う人たちの目を楽しませてくれます。



▲長栄橋（左）と富茂登橋（右）

基本データ

琴似発寒川は、西区の中心部を南北に流れる延長11.7キロメートルの新川水系2級河川です。

明治8年に琴似地区に最初の屯田兵が移住し、開墾を行っていた当時は「発寒川」と呼ばれていました。

明治19年、治水、排水のため掘削された人工の川「新川」ができてから現在の「琴似発寒川」と呼ばれるようになりました。かつて幾度となくはんらんし、「暴れ川」とも呼ばれていましたが、現在は砂防ダムなどにより、生活の安全が守られています。

四季折々、さまざまな表情を見せる琴似発寒川の秋の楽しみ方をご紹介します。

02



札幌市豊平川さけ科学館が行うシロザケの捕獲調査の様子。サケの大きさを測り、うろこを採取してサケの年齢を調べます。

【サケ観察会開催】

10月29日(日)午前10時～正午、11月5日(日)午後1～3時に、農試公園橋下流側で、豊平川さけ科学館職員がサケの産卵行動の解説をします。申込不要。小学校低学年以下の方は保護者と一緒にお越しください。
【詳細】TEL582-7555

【サケが大人になる年齢】

サケが大人になる年齢は、通常満1～5歳で、満3～4歳で大人になるものが最も多いです。

平成11年9月29日に満7歳のオスサケ(体長69.5㎝)が観測されています。



シロザケが自然産卵する川

毎年10月中旬から11月中旬に百尾から数百尾のシロザケが自然産卵しており、産卵の様子を観察できます。産卵場所は農試公園の横付近が中心です。回帰数は豊平川ほど多くありませんが、小さい川なのでサケの姿を見つけやすく、観察に適した川といえます。

03